

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

非常にわかりやすくまとめられている。2030年という具体的な時期を明記したうえで、それまでに実際にどのような目標を実現させたいのかというページが冒頭のほうで書かれている。「マインド イン マインド」という企業理念のどのような企業指針があり、サカタインクスがインク製造会社として社会に貢献するにはどのような姿であるべきか理解できる。企業として、企業のみのためではなく社会全体のために企業活動を行っていることがわかるため、全体的に好印象な報告書だ。さらに、SDGsなどの馴染みある社会目標を引用することで現実と照らし合わせやすい企業目標が表記されている。会社そのもの、社会そのもの、地域そのもの、という三点から企業としてサカタインクスが何に取り組むべきなのかが理解できたため高い評価ができる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

他社との比較などが見られないため、業界でどのような立ち位置にあるかはわかりにくい。しかし、サカタインクスがどれだけ広く展開しており、企業としてどれだけ社会に貢献できているのかは詳しく述べられていたため、競争優位性においてはかなり強い立場にあることが予想できた。その一例として、国内と海外での展開をしていることが挙げられる。通常、企業はよっぽどの資本がない限り海外への展開は難しいので、そのような点から会社の中の重要性が読み取れた。それだけではなく、前述したようなSDGsへの取り組みが環境負荷を低減するために行われていたことが随所で述べられており、それだけでもサカタインクスがどれだけ研究に力を入れているかが理解できた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

地域との連携やステークホルダーとの連携強化など、企業として様々な方面で連携を強化していることから企業の持続性に非常に力を入れていることがわかる。地域との連携は顧客のニーズをじかに聞ける重要なものであるため、商品開発の面で役立つだろう。ステークホルダーとの連携強化は、資金や企業の方針を決める際に重要であるため、企業全体の連携力を上げられる。この二点から企業としてに経営力を強化しようとしていることがわかるため、会社の持続性があることがわかる。加えて、環境負担軽減の取り組みは社会全体への影響だけでなくコンプライアンスの面でも好印象を持てるため、サカタインクスが掲げている目標の実際の達成度次第ではこの競争優位性がより一層強まることも期待できる。サカタインクスのサステナブル商品はほかの企業と比べても有効的かつ価値があるた

め、商品づくりの面でも持続性があるといえることがわかる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

当レポートには独立して「人権・人材」という商があるだけに、サカタインクスは社員を非常に重要視していることが読み取れる。その中でも、人材育成の部分は多少小さくはあるが、図とともに詳細な教育課程が各階級ごとに述べられている。これらの工程をたどることで、莫大な成長を見込めずとも自分の人的資本は確実に向上させることはできるだろう。また、k サカタインクスで得たスキルは他企業でも役立てることができるため、自身のキャリアのステップアップもこの企業にて行える場合もある。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

全体的に環境に対する懸念や企業都市手どのように取り組めば県境に対する負荷が減らされるか示されていたため、サカタインクスに対する好印象が残される報告書であった。2030年までの長期的なプランのみではなく、起業としての持続性を保つための中期的なプランも述べることで、企業が競争優位性をどのようにして強めるかを述べられていたこともさらにこう評価できるポイントであった。その反面、どのような点から他企業より強みがあるのかがあまり述べられていなかったため、その点は改善点としてあげられる。全体的に起業として具体的にどのような方針を掲げているかを強く訴えていたことがこの報告書において最もこう評価できる点だった。